

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1990. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 71

日本野鳥の会 埼玉県支部

入間川の野鳥たち

秩父の山を源流とする名栗川が入間川と名前を変え、入間市から狭山市へ流れてゆき、そこへ霞川が流れ込んでいます。この辺りは西武新宿線の狭山市駅と池袋線の稲荷山公園駅の間に位置し、住民は俗に埼玉都民と呼ばれるように、東京へ出るのは容易ですが浦和へ出るのは困難な場所です。探鳥会にしても我が支部よりも東京支部や奥多摩支部の方が参加し易い状況にあります。

入間川も堤防のすぐ近くまで住宅がぎっしりと建ち並んでいますが、鳥たちは狭い川に身を寄せ合っており、身近に観察することができます。では、狭山市の入間川での四季の様子を御紹介しますので、ぜひ一度おでかけ下さい。

春はさえずり

新富士見橋の上流側の砂礫地はイカルチドリのコロニーになっており、春には繁殖のためピピッと鳴きながら飛びまわっています。コガモを主とするカモ達も大勢残っており、ハマシギの編隊飛行も盛んです。ホオジロやヒバリが美しい声で盛んにさえずっています。スズメの声もこの時期はきれいですね。ツバメ達の数がどんどん増えてゆきます。本富士見橋の上流側ではツバメが多く、下流側ではイワツバメが多くみられます。時々ヒメアマツバメやアマツバメも飛んでいますので注意しましょう。

夏はフィッシング

カルガモを残して他のカモ達が去り、川面は寂しくなります。しかし、オオヨシキリやセッカの声で岸辺は大変にぎやかになります。この時期の楽しみはやはり子供たちでしょう。カルガモやバンの子供たちはとてもかわいいですね。ちょっと近くの雑木林にあるハシボソガラスの巣をのぞいてみましょう。真っ黒な子供が真赤な口を大きく開けてえさをねだっています。

堰のところではゴイサギやササゴイが魚を狙って不動の姿勢を保っています。ササゴイが擬似餌を使ったフィッシングをしていないか、良く観察しましょう。セキレイ類の幼鳥も次々に現れます。ツバメは付近の駅舎や家で子供を育ててどんどん集まってきました。木陰でカッコウの声でも聞きながら一休みしましょう。

秋は渡り

ツバメ達が去り、コガモを先頭にカモ達が到着します。カモの男たちはまだエクリプスです。この時期の♂♀の見分けは面白いですね。ハマシギも徐々にその数を増してゆきます。カラーリングを着けた個体がないか探しましょう。ここでは、シギ・チはあまり期待できませんが、キアシシギだけは必ず立ち寄ってゆくようです。ウズラシギも観察されています。ノビタキが今年も来ていないかスキの先を探しましょう。良く晴れた日には、上空にも注意しましょう。チョウゲンボウが飛ぶかもしれません。いなければ、トビが尾をひねって方向を変えるところを観察しましょう。羽を動かさずに飛ぶのは静止しているように見えても大変多くの筋肉が働いているそうですよ。

冬はディスプレイ

カモ達は衣装替えを済ませましたね。おだやかな日には♂達のディスプレイを観察しましょう。コガモがピリピリ鳴いていると、必ずそり縮みをしているのが見られます。いかにも本能が突き上げてくる感じがしますね。ユリカモメもはるばる東京湾から通勤してきます。どういうわけかここまでくるユリカモメには幼鳥の割合が多いようです。ジョウビタキやカシラダカも必ずきていますので探しましょう。冬は人が少ないのでカワセミを見る機会が多くなります。他の季節でも早朝にはよく見られるそうです。特に寒いみぞれの降るような日に厚着をして行ってみましょう。人が全くいないので、カモ達が大量で野球場

の芝生の上で遊んでいることがあります。ヒメアマツバメが雲霞のごとく飛んでいることもありました。

交通

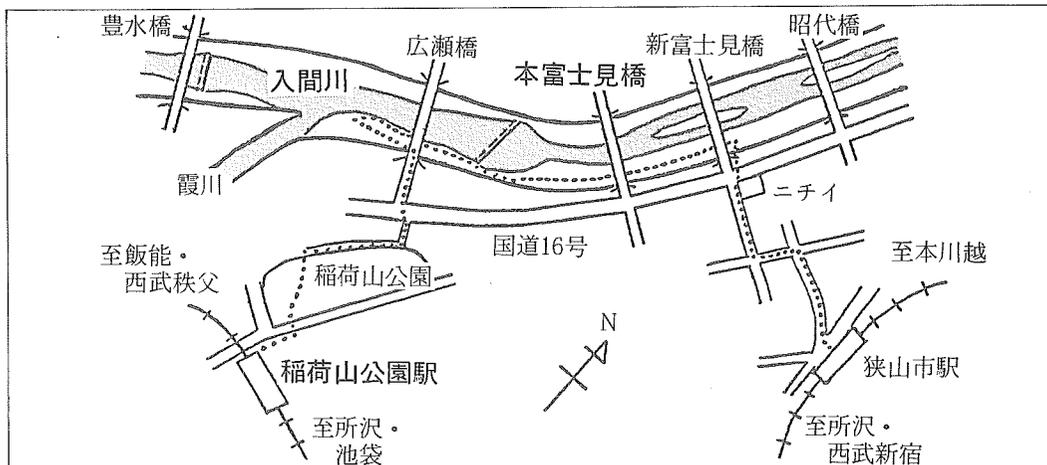
狭山市駅西口から徒歩10分程度で新富士見橋（ニチイの横）に着きます。橋の下流側の階段を下って川原に出られます。ここから上流に向かって本富士見橋、広瀬橋の下を通過して観察しましょう。広瀬橋の道路を南へ向か

えば稲荷山公園に出ることができます。対岸にはサイクリング道路が通っており、川越を通過して荒川ぞいのサイクリング道路（森林公園～北浦和）に接続しています。

おまけ

釣りをする人が多く、テグスがよく落ちています。鳥の足に絡みつくと命取りになりますので、かならず拾って帰りましょう。

(三田長久)



見られる鳥の種類

種名	春	夏	秋	冬
カイツブリ	◎	○	○	◎
ゴイサギ	○	○	○	○
ササゴイ	○	○	○	
ダイサギ		○	○	○
チュウサギ	△			
コサギ	○	○	○	○
マガモ	○	○	◎	○
カルガモ	◎	◎	◎	◎
コガモ	◎		◎	◎
ヨシガモ	△			
オカヨシガモ				△
ヒドリガモ	○		○	○
オナガガモ	○		◎	◎
ハンビロガモ	◎		◎	◎
キンクロハジロ	△			△
トビ	○	○	○	○
チョウゲンボウ	○		○	○
コジュケイ	○	○		○
キジ	○	○	○	
バン	○	○	○	
コチドリ	○	○	○	

種名	春	夏	秋	冬
イカルチドリ	○	○	○	◎
シロチドリ	○			○
ウズラシギ			△	
ハマシギ	◎		◎	◎
タカブシギ	△			
キアシシギ	○	○	○	○
イソシギ	○	○		○
タシギ	○		○	○
ユリカモメ	◎	○	◎	◎
ウミネコ	△			
キジバト	○	○	◎	○
カッコウ			△	
ヒメアマツバメ	○			○
アマツバメ	○	○		
カワセミ	○		○	○
ヒバリ	○	○	○	○
ツバメ	○	◎	○	
イワツバメ	◎	○		
キセキレイ	○		○	○
ハクセキレイ	◎		◎	○
セグロセキレイ	○	○	○	○

種名	春	夏	秋	冬
タヒバリ	○	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○	○
モズ	○	○	○	○
ジョウビタキ				○
ノビタキ			○	
ツグミ	◎		○	○
ウグイス	○	○		
オオヨシキリ	○	○	○	
セッカ	○	○	○	
シジュウカラ	○	○	○	○
ホオジロ	○	○	○	
カシラダカ	○	○	○	○
カワラヒワ	◎	◎	◎	◎
イカル		○	○	○
シメ			○	○
スズメ	◎	◎	◎	◎
ムクドリ	◎	◎	◎	◎
オナガ	○	○	◎	○
ハンボソガラス	○	○	○	○
ハシブトガラス		○	○	○

△：希 ○：普通 ◎：10羽以上の群れ

1988年4月から1989年12月の間に三田が見た種類。

1990年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会 埼玉県支部研究部

調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。
(執筆 小荷田行男)

1月15日、全国一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施されました。当日は移動性高気圧が本州に張り出し快晴又は晴れの好天気でしたが北の風が強く吹いていました。今年は、狭山湖と昭和池（菖蒲公園）については会員の方々の参加をいただき、他地区はそれぞれ調査員をお願いし県内で14ヶ所、48名の方の御協力を得ました。

調査地毎の1990年カウント結果と1982年からの主な年の合計値の推移(表1)及び1982年からの県内集計数の推移(集計対象は1990年調査地)(表2)を示します。1989年新たに完成した渡良瀬川遊水池貯水池を除いた1990年調査地を対象に集計した値(表2)は、1985年をピークに減少しています。

表2 ガン・カモ科の集計数の推移
(1990年の調査地で集計)

調査年	県内集計数	渡良瀬川遊水池貯水池
1982	22,300	—
1983	25,300	—
1984	—	—
1985	25,500	—
1986	22,700	—
1987	24,900	—
1988	18,900	—
1989	17,900	10,900
1990	18,800	6,100

表1 1990年ガン・カモ科のカウント調査結果と過去の合計数の推移

調査地	入間川	荒川			芝川	古利根川	利根川	渡良瀬川	狭山湖	小群川 調整池	百六湖	武蔵丘陵 森林公園	昭和池	白崎沼	大宮公園
調査範囲	豊水橋～ 新富士見橋	新荒川大橋 ～戸田橋	秋ヶ瀬橋～ 羽根倉橋	大麻生	東北線～県道 大宮栗橋線	赤橋～ 堂面橋	飯東大橋 下流	遊水池 貯水池			大沼	山田大沼 など			ボート池
地域	狭山市	川口市 戸田市	浦和市	熊谷市	大宮市	越谷市 松伏町	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	吉見町	滑川町	久喜市	浦和市	大宮市
コハクチョウ															
オンドリ												17	590		
マガモ	7		32			*	*	365	11	1,250	2,544				
カルガモ	25	132	34		12	139	*	249	147	19	1,388	1,654		7	
コガモ	242	54	123		69	90	*	406	288	56	586	1,902		42	
トモエガモ							*				1	64			
ヨシガモ										1					
オカヨシガモ	3		2				*		7						
ヒドリガモ		88				249	*	5	141		2	202			
アメリカヒドリ							*					2			
オナガガモ	48	396			198	158	*	8	98	1	355	828	180		
ハンビロガモ	7		9			2	*		10	4		130	5		
ホンハジロ		247	5				*		11	122	7	74			138
アカハジロ															
キンクロハジロ		13	100				*		12	1		48			20
ホオジロガモ									8						
ミコアイサ							*						1		
カワアイサ							*			6					
カモSP							1,400	6,110							
種類 合計	6	6	7	—	3	5	10	10	10	7	7	8	10	4	2
調査者数	332	930	305	—	279	638	1,400	6,110	1,071	702	1,453	4,900	5,495	234	158
1982年合計	—	1,831	724	408	199	362	—	—	4,709	—	445	7,897	5,672	13	—
1983年合計	—	2,223	770	339	—	470	—	—	6,449	78	168	8,323	6,310	22	134
1985年合計	—	903	—	133	—	—	6,284	—	4,017	—	—	6,065	7,940	134	—
1986年合計	—	955	1,317	37	—	—	1,763	—	2,455	—	2,131	6,418	6,262	—	—
1987年合計	—	741	500	24	—	729	3,210	—	3,170	—	2,048	6,814	7,630	—	—
1988年合計	—	712	543	457	—	718	3,483	—	1,692	—	963	3,367	7,055	—	—
1989年合計	598	467	625	162	—	469	3,148	10,890	664	—	627	3,375	7,823	—	—



アオサギ

阿久沢忠久 (所沢市)



楽しみにしていた高麗川のフィールドに久しぶりに出かけてみた。

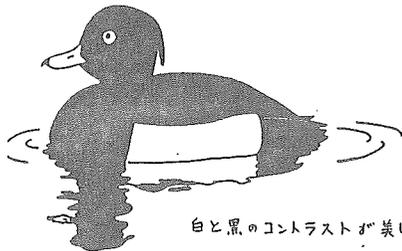
しかし、そこはもはやブルドーザー活躍の場であって、ヤマセミ、カワセミの狩場ではなかった。

この地の探鳥会で聞いた地元の人の話を思い出し、近くの団地内の人工池を初めて訪ねてみた。

それは、もう何年も前に聞いた話だからと期待は半ばであったが、意外にも池の中に話題のアオサギが姿勢を正しているのを見たときはうれしかった。

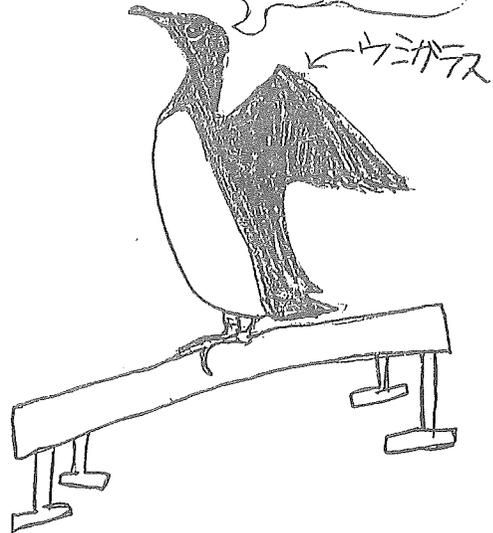
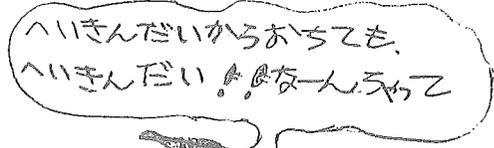
この写真は向けられたレンズをいやがってアオサギが近くの森に避難したときのものである。そこには、アオサギがこの森をわがものにして「印」が歴然と残されていた(足元に注意)。

しかし、一方では、先刻のブルドーザーの音と共に「この鳥がいつまで自分の狩場を守れるのだろうか」との思いが心に蘇った。



白と黒のコントラストが美しい
……キンクロハジロ

(矢作亮太郎)



(江原 愛)

河川敷にて 冬

Tosama (熊谷市)

朝焼けを切り裂き進め機関車よ

吾とスコップと期待を乗せて
チョコチョコとエサ採るシギを

見る君を盗み見ている私の視線
イソイソとハクサイ食べる

ヒヨドリの横顔を見る君の唇
カワセミの胸の橙見てる君

僕の心があたたかくなる
カタカタと尾羽を揺らすハクセキレイ

君が振り向く 心は揺れる
タカ見つけ飛び立つコガモ

吾の心 君の瞳に乱されている
妖しげに輝くタゲリの背を見てる

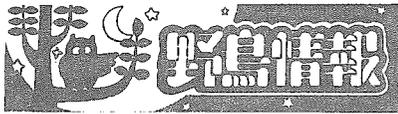
吾を迷わせる君のほほえみ
数十のマガモの群れを見つめてる

見つめていたい君だけを今
工事中の土手で鳴くモズ

吾の心 君の枝にてはやにえとなる
クイックイッと僕らに向って鳴くツグミ

君に何かを貢ぎたくなる
晴天の空に一羽のユリカモメ

僕の心に君だけが今



カワウ ◇2月10日午後2時頃、本庄市の阪東大橋下流で1羽。スコープでよく見ると、毛針が3本ついたテグスが胸についており、その内の1本がささって取れない。努力と苦闘する事約1時間半。「？」になったり「Q」になったりして、知恵の輪になったテグスはずすのに成功。お見事!!思わず拍手(町田好一郎)。

コハクチョウ ◇2月7日、花園町の花園橋付近の荒川で成鳥20羽、幼鳥1羽。同日、寄居町の荒川、玉淀河原の上流約500mの場所で成鳥6羽、幼鳥1羽。幼鳥の色彩の違いから上記21羽とは別グループと考えられる(田口浩司)。

ミコアイサ ◇2月10日、川本町本田芳沼で♂♀各1羽(小淵健二)。

オオタカ ◇12月10日、坂戸市新ヶ谷地域の高麗川で1羽。ブラインドの中でカワセミを待っていたら、横からスーッと向う岸の木の枝にとまる。しばらくあたりを見回し向う岸の河原へ飛び去って急降下した(岩崎雄二)。◇1月1日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(佐藤晶人)。◇1月6日午後1時、吉見町南吉見の農耕地で1羽。農地の中ほどにいたキジバトが急にあわてふためくように飛び出した。案の定、タカが逃げ遅れたキジバトを目の高さ程の低空でぐるぐる追いかけ回す。哀れキジバトは捕えられ、ふわっと羽毛が飛び散った。高圧線の鉄塔の近くで食べ始める。この時にオオタカと判明した。1月21日午後12時40分にも同所で同様シーンを目撃する(岩崎雄二)。

ノスリ ◇12月31日、浦和市秋ヶ瀬B区で3羽(佐藤晶人)。◇1月29日、吉見町の旧荒川付近で4羽(市川計彦)。

クイナ ◇2月12日、上尾市の丸山公園のアシ原で1羽(乗田実)。

ヒクイナ ◇1月28日、上尾市の丸山公園のアシ原で1羽。2月4日、同公園北口近くの田圃で2羽(乗田実)。

タマシギ ◇1月28日、上尾市の丸山公園の

アシ原で♂1羽。2月4日、同公園北口近くの田圃で♂3羽(乗田実)。

タゲリ ◇1月17日、嵐山市の都幾川の中州に下流より8羽飛来(橋本博夫・千枝子)。◇1月23日、東松山市西本宿で2羽(中村治)。◇1月23日、坂戸市島田で5羽(中村治)。◇2月2日、浦和市秋ヶ瀬B区で3羽(佐藤晶人)。

セイタカシギ ◇12月4日、戸田市道満で1羽(佐藤晶人)。

カモメ? ◇1月10日、戸田市の戸田橋付近の荒川で1羽。下流方面へ飛ぶのを観察する(高橋達也)。

シラコバト ◇2月17日、鴻巣市人形4丁目の自宅傍の電線に11羽。こんなに多く見たのは初めて(内藤義雄)。

コミミズク ◇1月15日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽。当日は休日の為、人が大勢いたせいか、居場所がないようであちこち飛び回っていた(高橋達也)。

◇1月29日、吉見町の旧荒川付近で3羽。「ギャウ」という声でよく鳴いていた(市川計彦)。◇2月3日午後3時5分、川越市の安比奈新田から豊水橋の間で1羽(石井幸男)。◇2月22日午後4時半頃、鴻巣一東松山県道沿いの荒川河川敷で1羽。ノスリと絡み合って飛ぶ。わかれて、ゆっくりはばたき着地。「右見て、前見て、左見て」を約20分くり返し飛び去る(内藤義雄)。

オオコノハズク ◇2月9日、北本市石戸宿の北里メディカルセンター付近で1羽。日没後に見る(市川計彦)。

カワセミ ◇1月10日、戸田市道満で1羽。荒川の護岸のコンクリートにとまっていた。当地で観察を始めて以来の初記録(高橋達也)。◇1月23日、東松山市の都幾川、東武東上線鉄橋付近で♂1羽(中村治)。◇1月23日、川島町の都幾川、長楽落合橋付近で♂1羽(中村治)。

アオゲラ ◇2月10日、北本市石戸宿で1羽(立岩恒久)。

アカゲラ ◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。◇2月10日、北本市石戸宿で1羽。木の横枝を上になり下になり

して餌を探していた(立岩恒久)。
 ヒバリ ◇2月19日、浦和市の見沼田圃で空高く上りさえずる(村上由香)。
 イワツバメ(初認) ◇2月3日午前10時40分、川越市の入間川で10羽(石井幸男)。
 ハクセキレイ(ねぐら) ◇1月18日、熊谷駅の北口広場の街路樹でねぐらをとっていた。午後5時から5時18分の間で307羽を記録した(海老原美夫)。
 セグロセキレイ(足輪) ◇1月14日午後2時、嵐山町の婦人会館付近の都幾川で2羽。右足に上からオレンジ、白、青。左足に白、青の個体1羽。右に緑、左に青の個体1羽。1月21日にも同所で観察する。2羽で一緒に行動しているようです(岩崎雄二)。
 ビンズイ ◇1月14日、深谷市の仙元山公園で3羽(小淵健二)。
 カヤクグリ ◇2月3日、寄居町の鐘撞堂山で2羽(田口浩司)。◇2月7日、寄居町の玉淀ダム付近で1羽(田口浩司)。
 ルリビタキ ◇1月24日、坂戸市城山で♂1羽。体の青が濃く見えました(増尾節子)。◇1月27日、嵐山町の菅谷館跡南郭で♂1羽。人なつっこく2m位まで近づき動きまわる(橋本博夫・千枝子)。
 トラツグミ ◇1月21日～26日、嵐山町の菅谷館跡の堀の根もとで1羽。2年ぶりの来訪(橋本博夫・千枝子)。◇1月25日、県立大宮商業高校の体育館わきで1羽落鳥。外傷はなかったが、羽が2～3枚ちらばっていました。体長28cm(村上由香)。
 アカハラ ◇1月23日、東松山市の都幾川、東武東上線鉄橋付近で1羽(中村 治)。
 シロハラ ◇1月14日、深谷市の仙元山公園で♂1羽(小淵健二)。◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。◇2月

3日、朝霞市の城山公園で1羽(中村 治)。
 ◇2月10日午前11時頃、大宮市大和田町の自宅庭で♂1羽。2時間位枯葉をひっくり返し餌を探していた(馬場 昇)。
 ウグイス(初鳴き) ◇2月17日、鴻巣市人形4丁目の自宅隣地の梅林でさえずりを聞く(内藤洋子)。◇2月21日午前7時、大井町西鶴ヶ丘で(林 弥生子)。◇2月28日、浦和市北浦和の民家の庭で。それも梅の木で。これぞ梅にウグイス(小谷野勝栄)。
 ◇3月1日、浦和市本太で(藤野富代)。
 キクイタダキ ◇1月25日、坂戸市城山で5～6羽。エナガ、ヒガラ、コガラ、ヤマガラとの混群でした(増尾節子)。
 ヒガラ ◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で8羽(田口浩司)。
 ヤマガラ ◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(田口浩司)。
 ホオアカ ◇2月3日、川越市の安比奈新田から豊水橋の間で1羽(石井幸男)。
 ミヤマホオジロ ◇1月14日、深谷市の仙元山公園で♂2羽♀1羽(小淵健二)。◇1月27日、坂戸市城山で♂1羽。雑木林と田圃の境のブッシュの中の低木にとまっていた(増尾節子)。◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で♂2羽(田口浩司)。
 クロジ ◇2月3日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽(田口浩司)。
 アトリ ◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で♂♀各1羽(田口浩司)。
 イスカ ◇2月2日午後12時10分、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽(田口浩司)。
 ベニマシコ ◇12月23日、戸田市道満で♂2羽♀1羽(佐藤晶人)。◇2月2日、寄居町の鐘撞堂山で♂3羽♀1羽(田口浩司)。

表紙の写真

1989バードフォトコンテスト入選作

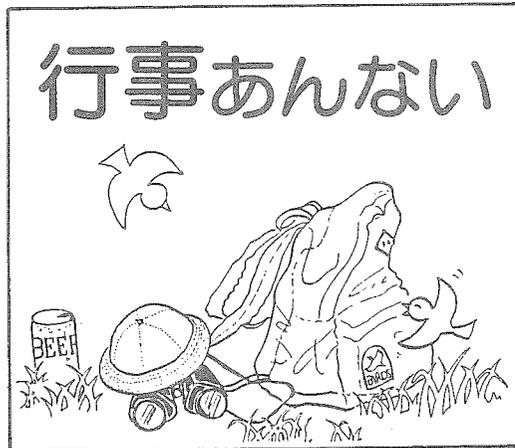
キジ(キジ科)

今から20数年前、狩猟区域だったところの見沼田んぼでは、このように美しい光景は見る事ができなかった。

こんな美しい野鳥と、いつまでも共存できる環境であってほしいと願っている。

1989年5月/浦和市さぎ山記念公園付近にて/ニコンF3、MD4付/ニッコールED 600mm F4 S、1.4倍テレコン付/開放、250分の1秒/フジクロームRDP100D

(鈴木秀男=大宮市)



熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月8日（日）
 集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前
 交通：秩父鉄道熊谷9：00発→大麻生9：10着 / 秩父鉄道寄居8：52発→大麻生9：10着
 解散：午後1時ごろ
 担当：講訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一郎、小淵健二、逸見嶮、関口善孝、高橋夕香子、田口浩司、宮坂亨
 見どころ：身近な自然大発見。菜の花咲きみだれる川原はまさに感激もの。春爛漫の大麻生をじっくり味わいましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月15日（日）
 集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）
 解散：午後1時ごろ
 後援：浦和市立郷土博物館
 担当：楠見邦博、伊藤芳晴、笠原伸子、手塚正義、渡辺周司、乗田実、福井恒人
 見どころ：何気ない風景の中に春を実感。今年度も、郷土博物館の後援で行なわれる探鳥会。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月20日（金）夜～22日（日）夜
 集合：20日20時 浜松町駅東京寄り改札口

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
 探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

帰路：東京港に22日19時20分到着の予定
 費用：約17,000円の予定（宿泊費、往復船賃含む。ただし島でのバス代は各自負担）
 定員：20名程度（先着順、県支部会員優先）
 申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を書いて北川慎一（〒114-8501 東京都荒川区西日暮里5-1-1）まで。

担当：北川慎一、榎本秀和、草間和子
 見どころ：海と島と鳥の旅。胸ワクワクの三宅島。朝から晩までトリ、トリ、トリ。なお、既に申し込まれた方には案内状を送りました。

北本市・石戸宿探鳥会

期日：4月22日（日）
 集合：午前9時20分 北里病院玄関前
 交通：北本駅西口アイメガネ前より8：50発 北里メディカルセンター行きバス利用
 解散：午後1時ごろ
 担当：岡安征也、吉原俊雄、立岩恒久、内藤義雄、逸見嶮、関口善孝、赤瀬征雄、遊佐京子
 見どころ：姿を変えた農事試験場跡地。病院や道路ができたけど、石戸宿の春はどうなった？

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月28日（土）午後1時～3時ごろ
 会場：支部事務局
 案内：探鳥会とは一味違う、支部活動の一端をちょっと体験しませんか。

野鳥写真クラブ定例会

とき：4月28日(土)午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：要するにスライドを見せっける会です。怖くありません。どなたでも参加できます。見るだけのあなたも大歓迎。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：4月29日(日・祝)

日本野鳥の会埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類県内一斉調査を行っているところですが、次の地点はより多くの会員の参加をお願いしたい場所です。

◇秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西、水門付近の土手の上。

担当：石井智

解散は昼近く。雨天決行です。参加費はいりません。いつものしたくでお気軽にどうぞ。

茨城県・菅生沼探鳥会

期日：4月30日(月・振休)

集合：午前8:45分 東武鉄道北越谷駅東口
交通：東武伊勢崎線新越谷8:31発→北越谷8:38着または東武伊勢崎線春日部8:22発→北越谷8:38着、その後8:55発岩井行きバス乗車(片道570円程)。

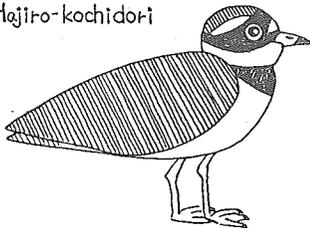
解散：現地にて午後2時ごろ

担当：中島康夫、石川敏男、楠見邦博

見どころ：春光に映える菅生沼。いつ訪れても豊かな表情を見せてくれる菅生沼。春はシギの仲間も期待しましょう。8kmほど歩くので足ごしらえはしっかり。

WANTED

Hajiro-kochidori



(榎本秀和)

5月6日(日) 千葉県・谷津干潟
本庄市・阪東大橋

5月11日(金)夜行～12日(土) 軽井沢

5月13日(日) バードウィーク探鳥会
熊谷市・大麻生、蓮田市・黒浜沼
浦和市・秋ヶ瀬、川越市・西川越

5月20日(日) 浦和市・三室地区

5月27日(日) 上尾市・丸山公園

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：6月2日(土)早朝～3日(日)

集合：午前5時20分 JR長野駅改札口前

交通：大宮駅を2日午前0時26分発の急行妙高(4時43分長野着)が便利です。

費用：10,000円の予定(一泊三食、現地バス代、保険料など)

定員：40名(先着順、県支部会員)

申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を書いて北川慎一、
まで。

担当：北川慎一、草間和子、黒田佳子、榎本秀和

見どころ：夏のスターが勢揃い。キビタキやオオルリのさえずりが林に満ち渡ります。ミズバショウ、リュウキンカなどの植物も花盛り。その上、夜は手打ちの戸隠そば食べ放題、地酒飲み放題と、ホントにこたえられないツアーです。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：6月9日(土)～10日(日)

費用：宿泊費・往復交通費など約12,000円

定員：20名程度(先着順、県支部会員優先)

申込み：葉書か電話で中島康夫

まで。

担当：中島康夫

見どころ：高層湿原に初夏のコーラス。朗らかなキビタキのさえずりの中、戦場ヶ原を歩きましょう。たっぷり鳥を楽しんだあとは、野鳥や鳥仲間たちとの出会いに乾杯です。自然豊かな奥日光で、忘れられない思い出さしあげます。

行事報告

12月23日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、遠藤光一、河辺達朗、草間和子、鈴木秀男、鈴木美恵子、諏訪隆久、高橋正美、高橋夕香子、中村治、野中康治、林滋、馬場昇、藤野富代、古沢厚良、宮坂亨、村上久美子、吉田二三子、渡辺敦、渡辺喜八郎、渡辺孝章(23人)

12月23日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 23人 **作品発表した人** 4人



ホシハジロ (渡辺敦・東京都羽村町)

1月14日(日) 熊谷市 大麻生

人 49人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ イカルチドリ シロチドリ ハマシギ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(34種) カワセミがホバリングとダイビングをしたあとで止まった所を見ていると、なんとベニマシコのカップルがひょっこり!! また、河原には多くのハ

マシギやイカルチドリが…。春から夏、多くの人出がある大麻生も、寒い冬の間は野鳥の楽園だ。

1月15日(休) ガン・カモ類県内一斉調査

がんばった人 荒木恒夫、石井智、石井幸男、石岡友二、伊藤芳晴、内山幹男、榎本秀和、海老原教子、遠藤薫、大武昭雄、岡安征也・ゆかり、小淵健二、金井祐二・敦美、河辺達朗、小林恒雄、小荷田行男、佐藤方博、篠崎清秀、諸徳寺四郎、杉本秀樹、諏訪隆久、高橋夕香子、立岩恒久、手塚正義、登坂久雄、内藤義雄、中島康夫、中村治、長谷部謙二、馬場昇、林郡一・澄恵、林滋、福井恒人、藤野富代、逸見嶮、町田好一郎、松井昭吾、三田長久、守田聖、森本國夫、山部直喜、吉原俊雄、若林正徳・和子、渡辺敦(48人) 大勢の会員のご協力で、県内各地で調査が行われた。結果は、『しらこぼと』で発表される。

1月21日(日) 嵐山町 菅谷館跡周辺

人 28人 **天気** 晴 **鳥** コサギ ハイタカ キジ イカルチドリ クサシギ イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(35種) 日だまりに出てきて落ち葉をひっくり返すアカハラの本当に赤い腹が良く見えた。河原では日向ぼこのタシギ。頭上の枝にはメジロとエナガ。首が痛くなってしまった。そして鳥合わせの後に飛んだオオタカとノスリ。まだ自然が十分残る嵐山町。参加者全員がこの豊かな自然

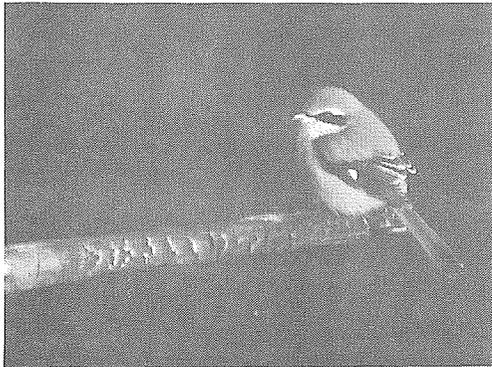
を見守っていかねければと感じたことだろう。

1月27日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 市川紀文、岩波勇一、海老原教子、河辺達朗、楠見文子、小林恒雄、小林芳江、小荷田行男、鈴木秀男、田口浩司、中村治、藤野富代、宮坂亨、村上由香、吉田二三子、渡辺敦、渡辺孝章(17人)

1月27日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 20人 **作品発表した人** 7人



モズ(町田好一郎・本庄市)

2月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 39人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ イカルチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(32種) 熊谷あたりの会員はご存じですが、「アズフォーラム」という駅ビルA Z熊谷の行事案内が新聞広告として各世帯へ配布されています。そして、それに毎月バードフォトコンテスト入選作と大麻生探鳥会の案内を掲載させていただいているのです。今月は登坂さん撮影のカワウの写真を使ったのですが、その結果、カワウの初記録となったのでした。

2月12日(休) 上尾市 丸山公園

人 32人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ コサ

ギ ノスリ コジュケイ クイナ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス(31種) カワセミが間近で見られた。葦原では初めてのクイナの出現に参加者全員興奮気味! コースも終わりに近づいた頃、ノスリが舞い。おまけにホオアカが見られ、もう最高!

2月12日(休) 滑川町 森林公園

人 55人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ オンドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ ハイタカ キジバト コゲラ ビンズイ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(28種) 良く晴れて初春を思わせる暖かい一日だった。なぜか鳥は思ったよりも少なく、多くの人が、多くの期待をもって参加してくれたのに…。でもシロハラは全員でじっくり観察し、初めて見たという感動派も数人。みんなで捜したトモエガモも最後に姿を現わしてくれた。

2月18日(日) 浦和市 三室地区

人 29人 **天気** 晴 **鳥** コサギ カルガモ コガモ コジュケイ タカブシギ イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種) しばらくぶりで、忠兵衛橋の付近にヤマガラ出現。きっと近くのエゴノキの実がお目当てなのだろう。カワセミもこの半年で5回見られ、定着してくれたようだ。博物館報に伊藤さんのホシハジロが掲載されたのもニュース。



評議員会に出席

2月17～18日、都内渋谷区で、全国の支部代表者が集まり、本部の評議員会と拡大評議員会が開催され、当支部からは鈴木忠雄支部長と、海老原美夫評議員が出席しました。

冒頭に病気入院中の山下会長からの、テープに録音されたメッセージが発表され、山下会長と、江戸・花村両理事が、既に長年理事をつとめ、そろって80才以上になることを理由に、辞任することが伝えられました。

後任の会長は、4月に開催される理事会で決まる予定です。

また、同会議で、海老原評議員が、関東ブロックを代表する理事に選出されました。

4月1日から3年間理事をつとめます。重大な責任に、皆様のご協力をお願いしますと、めずらしくまじめな顔をしています。

会員の展覧会

会員の金谷弘己さん（大宮市）が、奥さんといっしょに展覧会を開きます。夫がアラスカなどでうつした野鳥写真を、妻は書を展示するという、異色の組み合わせです。

●4月6日(金)～16日(月) (4/11休館)

午前9時～午後6時 (16日は5時まで)

●大宮駅西口 ソニックシティビル27階
セキスイハウスハウジングギャラリー
SHIC27 (入場無料)

毎月編集会議だぞ

毎月袋づめの会の2週間前の土曜日に、事務局で編集会議をやるぞと、山部部長がかたく決意しました。会議だけではなく、『しらこぼと』がどのように作られるか、編集作業の実際も見られます。部員に限らず、興味のある方はどなたでもお集まりください。

4月の土曜日当番 (午後2～6時)

- 4月7日 榎本秀和 河辺達朗(研究会会議)
- 4月14日 海老原美夫 山部直喜(編集会議)
- 4月21日 岡安征也 藤野富代
- 4月28日 袋づめの会 (1時から)

ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。

榎本秀和 (個人的パードソン) 2,000円、川口由美子 2,000円、鈴木忠雄 7,500円、関口善孝 2,000円、宮坂靖子 5,000円、役員リーダー研修懇親会 4,907円。

●次の方々からは支部賛助会費 (通常の会費との差額分 8,000円) をいただきました。

草間和子、諏訪隆久。

(いずれも50音順、敬称略)

会員数は

3月1日現在 1,239人です。

活動報告

- 2月4日 役員会議 (いわき市にて、司会：杉本、探鳥会予定など)。
- 2月10日 普及部会議、編集会議、総務部打ち合わせ、事業部打ち合わせ。
- 2月22日 県自然保護課へ (海老原)。



「イー、イー、イー、ホントーニ、イイ」
これは、拡大版『フィールドガイド日本の野鳥』を初めて手にした時の私の奇声です。

まず絵がいい。B6版と同じ絵なのに、拡大することによって、細部がよくわかるだけでなく、実際の量感まで感じるのです。

字の大きさもよい。大きいと絵を見ながらの理解が、容易になるようです。

あらためて、高野伸二さんの偉大さをしみじみ感じました。(山部直喜)

『しらこぼと』1990年4月号(第71号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)